



ブースはアークスライド方式の扉でゆったりとした空間。壁紙は中学校のアート部が選択。

沖縄県浦添市

昭和薬科大学附属 高等学校・附属中学校

愛着の持てる楽しいトイレを
生徒とともに実現

昭和薬科大学附属高等学校・附属中学校は県内有数の進学校。「品格ある進学校」づくりを目指し、情操豊かな人格を育む特色ある教育を心がけています。昭和49年開校の同校では、施設の老朽化が進んできた平成21年頃から、時間をかけて新校舎設立の構想を練ってきました。なかでも、一般的にマイナスイメージの強いトイレ空間に関しては、日頃から生徒による「トイレ清掃コンクール」を行うなど、清掃面に注力してきたこともあって特にこだわりました。「愛着の持てるトイレ、楽しくなるトイレ、掃除をしに行きたくなるトイレ」を目指し、資料集めや検討を重ねたのです。稲福達也校長(当時)自ら、「研究誌を見たり、駅や公共施設のトイレをよく見るようにして研究しました」と言います。

例えば、扉がアークスライド方式のトイレブースに決めたのは、市民会館で同タイプを見たのがきっかけ。「これなら空間が広く使え、掃除もしやすそうだ」と思ったそうです。また、トイレづくりを担当したのは、ワークシヨップを開催し、アート部の中学3年生が空間デザインを決めました。「清潔」をコンセプトに、手洗い場のカラー決めをしたり、個室ブースの壁はすべて異なるデザインの壁紙にしたり、大胆なアイデアが詰まった空間は、まさに「楽しくなるトイレ」そのもの。デザインに関わったアート部の生徒さんに感想を聞くと「大人の設計士と協力して作れたことがうれしかった」(真壁さん)、「使う人の意見を取り入れると、使いやすいトイレになるんだなと思った」(上原さん)と満足そう。平成28年3月、新校舎の竣工に伴って、古い校舎は取り壊しになりました。生徒たちはこれまで使ってきたトイレに感謝を込め、ピカピカに磨き上げてから別れを告げたそうです。新校舎の新しいトイレもきつと長く愛されることでしょう。



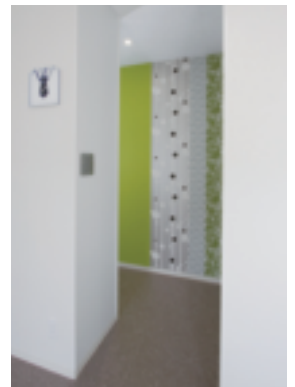
女子の洗面はコミュニケーションを考え、アイランドタイプを採用。フロアごとにテーマを設け、空間のカラーを設定。1階は「海＝青」、2階は「森＝緑」、3階は「光＝オレンジ」。



男子トイレはできるだけ個室ブースまで行きやすいよう、視線を遮るための柵付きの壁を真ん中に設けた。



ケガをした子も使いやすいよう、各トイレには大きめのブースも設置。



トイレ入り口のサインは同校の制服がモチーフ。生徒のアイデア。



1階には車いすでも入れる多機能トイレを設置。シャワー室も併設している。



保健室にもトイレとシャワー室が併設された。



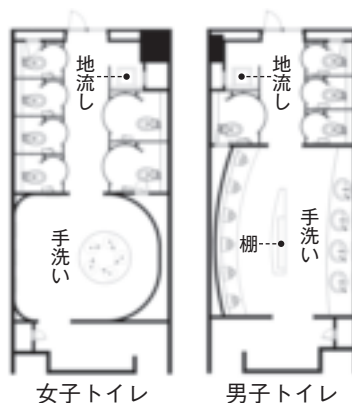
フロアによってアークスライド方式の扉の色や質感も変えている。

DATA

- 竣工年月 / 2016年3月
- 所在地 / 沖縄県浦添市沢砥450
- 施主 / 昭和薬科大学
- 生徒数 / 約1,300名(2016年3月)
- 設計・施工 / 清水建設・金秀建設JV

/// 改修後 ///

アークスライドドアを使用した男女トイレ。男子トイレは隣の視線が気になる生徒に配慮して、小便器はカーブを描くように配置。女子トイレは円形に配された手洗いが印象的。



ワークショップではイメージを深めるため、個室ブースの壁紙も模型で確認して決定した。